

学校教育目標 「やる気いっぱい やさしさいっぱい 元気いっぱい 蒔田っ子」



まいた

令和8年度

7月号

令和8年6月26日

<http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/maita/>

「前へ進む力と、支え合う力」

校長 鳥飼信幸

サッカーワールドカップの真^まただ中^{なか}、日本代表^{にほんだいいひょう}の活躍^{かつやく}を祈^{いの}っています。

本校^{ほんこう}では、子どもたちが「本物^{ほんもの}に学ぶ^{まな}」機会^{きかい}を大切^{たいせつ}にしています。サッカーワールドカップ開催中^{かいさいちゆう}、今回^{こんかい}、横浜^{よこはま}キャノンイーグルスとの学び^{まな}（ラグビー）を通して、子どもたちは多くのことを感じ^{かん}、学びました。横浜^{よこはま}キャノンイーグルスは、日本^{にほん}のラグビーリーグ「ジャパンラグビーリーグワン」のディビジョン1^{わん}に所属^{しよぞく}するプロラグビーチームです。横浜市^{よこはまし}をホストエリアとしており、地域^{ちいき}に根ざした活動^ねを行っています。

「横浜^{よこはま}キャノンイーグルス」と「子どもたちの学習^{がくしゆう}」を結びつけるテーマは、とてもよい教育的価値^{きょういくてきかち}があります。スポーツチームと学習活動^{がくしゆうかつどう}をすることで、子どもたちの主体性^{しゆたいせい}・協働性^{きやうどうせい}・実社会^{じっしやかい}との接続^{せつぞく}が自然^{しぜん}に育ちます。

学習^{がくしゆう}の価値^{かち}として、「リアルな学び^{まな}になる」：教科書^{きやうかしょ}だけではなく、実在^{じつざい}するチームといっしょに活動^{かつどう}することで「自分ごと化^{じぶんごとか}」されること。「子どものモチベーション^こが上がる」：運動^{うんどう}が得意^{とくい}、不得意^{ふとくい}関係^{かんけい}なく運動^{うんどう}それ自体^{じたい}を楽しむことができること。「多教科横断^{たきやうかおうだん}が可能^{かのう}」：1つの題材^{だいざい}で国語^{こくご}・算数^{さんすう}・社会^{しゃかい}・体育^{たいいく}・キャリア教育^{きやういく}・探究型学習^{たんきゆうがく}に最適^{さいてき}。「非認知能力^{ひにんちのうりよく}が育つ^{そだ}」：チームワーク・粘り強さ^{ねばづよ}・リーダーシップ^{そだ}育つこと。これはラグビーの核^{かく}心的価値^{しんてきかち}です。

また、学習^{がくしゆう}プログラムとして考えられるのが、総合^{かんが}的な学習^{そうごうてき}（探究^{がくしゆう}）：「プロラグビーチームを支える仕組み^{ささ}を探る^{しく}」、キャリア教育^{きやういく}テーマ：「ラグビーチームで働く人びと」、体育^{たいいく} × 学び^{まな}テーマ：「ラグビーから学ぶ^{まな}チームワーク」、算数^{さんすう}・データ活用^{かつよう}テーマ：「試合^{しあい}データ分析^{ぶんせき}」、国語^{こくご}・表現^{ひょうげん}テーマ：「スポーツライターになろう」。「感動^{かんどう}したことを伝えたい^{つた}」、地域^{ちいき}学習^{がくしゆう}テーマ：「横浜^{よこはま}とチームの関係^{かんけい}」などが考えられます。今後^{こんご}、どのよう^{たの}にいかされるのか楽しみ^{たの}みです。

そして、ラグビーというスポーツは、理不^{りふ}尽^{じん}な競技^{きやうぎ}です。ボールは前^{まえ}に投げることができず、必ず^{かなら}後ろ^{うし}へつなげなければなりません。しかし、その中^{なか}で選手^{せんしゆ}たちは、決して後ろ^{うし}へ下^さがることなく、前^{まえ}へ前^{まえ}へと進^{すす}み続^{つづ}けます。

今回の学びの中で、私にとって特別な出会いがありました。南選手です。実は南選手は、私の高校のラグビー部の後輩になります。年代がかなり離れていても同じグラウンドで汗を流したつながりをもつ一人が、時を越えてプロとして活躍し、子どもたちの前に立っています。その姿に、深い感慨を覚えました。二つ上の先輩が監督となって指導した後輩です。南選手は「高校のラグビー部の先輩だから行きます」と即答したそうです。会ったことのない先輩後輩ですが、同じグラウンドで同じ目標、同じように言葉にできないぐらいのつらく苦しい練習に励み、挫折と勝った時の喜び、仲間といっしょに楕円球を追った日々など、共感できるからだと思います。

「高校時代のつらく厳しい練習、泥にまみれ、息が切れるまで走り続け、限界の先まで挑み続けたあの頃の自分を思い出せば、どんな困難だって、きっと乗り越えられますよ。」「先輩もそうじゃないですか!」と言われました。とってもいい後輩でした。子どもたちは大好きになりました。同じ学校で学び、同じグラウンドで努力を積み重ねたという見えないつながりが、先輩と後輩を結び付けているのではないのでしょうか。ラグビー部の先輩後輩の関係はともに練習をしていなくても、これからもずっと続きます。

南選手は、チームへの強い感謝とラグビーに対するひたむきな姿勢が特徴です。また華やかな成功だけではありません。南選手は、成功の裏にある苦しさや、思うようにいかなかった時間についても率直に語ってくれました。

また、スタッフの湯澤さんからは、「自分の役割を果たすことがチームを支える」という大切な視点を学びました。目立つ役割だけでなく、支える存在の価値に気付かされました。湯澤さんも元ラグビー選手です。

皆さんで後輩の南友紀選手の応援、よろしく願います。新横浜の日産スタジアムと三ツ沢のニッパツ三ツ沢球場へ、ぜひ足を運んで生の南選手、ラグビーを観てください。区民デーで無料観戦できる試合もあります。

3・4年の体育担当である比良田先生が、子どもたちとともに試合に参加し、何度もトライを決める場面がありました。全力で走り、体を張り、何度も前に出ていくその姿は、まさに「本気」そのものでした。もちろん、私も全試合に出ました。

大人の姿に、子どもたちは、大きな影響を受けていました。「南選手、すごい!」「湯澤さん、おもしろい!」「比良田先生、うまい!」「もう一回やってみたい!」と。

大人が本気で取り組む姿は、言葉以上に子どもたちの心を動かします。挑戦する楽しさや、あきらめない姿勢が、まっすぐ子どもたちに伝わっていました。

それは、学校の中だけにとどまるものではありません。私たち大人が何かに一生涯懸命に向き合う姿、あきらめずに取り組む姿は、子どもたちにとって何よりの学びになります。うまくいく姿だけでなく、悩みなながらも挑戦し続ける姿こそが、「大人も努力している」という安心感や勇気となって、子どもたちの心に届いていきます。土曜日の授業参観時に、こどもみらい応援隊の穂坂さんを中心に、日本をうつくしくする会の皆さんのご協力でご協力の本校のトイレを掃除します。真剣にトイレ掃除をする大人の姿も子どもたちにとてもよい影響をあたえます。私も参加します。日本をうつくしくする会の皆さんは全国から駆け付けてくださいます。

子どもは、大人の背中を見て育つと言われます。学校と家庭がともに「本気の姿」を示していくことで、子どもたちの中に、前へ進もうとする力と、人と支え合う心が、より確かに育っていくことと信じています。

最も印象に残ったのは、3年生の姿です。元気いっぱい前に出ようとする力があり、ボールを持てば一生懸命に走り出します。その姿はとてたくましく、挑戦する気持ちそのものです。練習を重ねる中で、子どもたちは少しずつ変わっていきました。「こっちにパスして」「いっしょにやろう」と声をかけ合い、仲間とボールをつなぐ姿が見られるようになりました。一人で進むだけでなく、周りを見て支え合う姿が育ってきたのです。前へ進む力と、支え合う力。この二つが合わさることで、人もチームも大きく成長していくのだと感じます。

私自身もこれまで、思うようにいかない経験を重ねてきました。うまくいかず立ち止まることもありました。しかし、そのたびに支えてくれる人の存在があり、再び前を向くことができました。ラグビーと同じように、人生も一人では進めません。誰かがつなぎ、誰かに支えられながら、少しずつ前へ進んでいくものです。

子どもたちは今回の学びを通して、前に進む勇気と、仲間と支え合う大切さを感じ取っています。これからも、挑戦する気持ちを大切にしながら、一人で抱え込まず、仲間とともに歩んでいってほしいと願っています。前へ進む力と、支え合う力。ボールは後ろへ。しかし、人は前へ。

この意味を、これからも子どもたちとともに学び続けてまいります。今後とも、ご理解ご協力、応援、よろしくお願いいたします。

すこし早いはやいですが、夏休みに入ります。私の思いは子どもたちが夏休みに病気やけが、事故がなく元気に登校してくること、そして、どの子も充実した日々を過ごすことを願っています。何か自分が挑戦したいことに取り組むよい機会です。どうぞご家庭におかれましてはお子さんの健康管理や安全管理、よさを見つけたら褒めてください。また、子どもたちはいつもより時間に余裕があるので、大人から「対話」してみてください。

保護者、地域の皆様、こどもみらい応援隊の皆様、学援隊の皆様、登校班でお世話お世話になっている校外委員の皆様、教育委員会の皆様、区役所の方々、警察、専門機関、企業、大学等などの皆様、4月から本校へのご支援ありがとうございます。夏休み期間中も、引き続き子どもたちを温かく見守っていただけたらと感謝いたします。

ちなみに、横浜キヤノンイーグルスの南選手が来た次の日、昨年度の6年生、今の中学1年生が「南選手来たんだって」と、校長室を訪ねてきました。「どこで聞いたんだよ」「来たよ、高校の後輩だから」と言うと、「今からいっしょにラグビーしよう」と言いました。「えー、なんで」と応えると、「毎日休み時間、ラグビーやってくれたじゃん」と言うてくるではありませんか。そして、約2時間、校庭で中学生といっしょにラグビーをしました。けっこう体力を使いました。